



岩手県立総合教育センター
〒025-0301 岩手県花巻市北湯口2-82-1
TEL 0198-27-2711 FAX 0198-27-3562
<http://www1.iwate-ed.jp/>
平成19年7月17日発行



確かな学力

所長 伊藤 勝

変化の激しいこれからの社会を生きていく子どもたちには「生きる力」を育むことが大切です。それは、健康・体力、豊かな人間性、確かな学力によって培われる力であり、確かな学力の内容・具体像は「基礎・基本」に基づき、「判断力」「表現力」「問題解決能力」「学ぶ意欲」「知識・技能」「学び方」「課題発見能力」「思考力」を総合的に伸長させることです。

『欧米の多くの国では、1970年代頃までの「詰め込み教育」の反動として、その後一時的にいわゆる「子供中心主義」的な考え方（子どもたちが学びたいことを、学びたい時に、学びたいように学ばせるべきであり、教師は子どもたちの「学びのサポート」たるべきであって、「教える」ということ自体がよくない、といった極端な考え方）が流行しました。このような「理想」を実現するためには、子供たちが「将来必要になること」を自然に「学びたい」と思うように、教師は「動機付け」のための膨大な努力をする必要があります。しかしこの考え方は、多くの場合「子供たちが学びたくないと言っているのだから無理には教えない」という「逃げ」の口実とされ、学習指導要領のような「基準」をもっていなかったこれらの国々で、大規模な学力低下をもたらしました・・・』

（『教育議論をかみ合わせるための35の力ギ』岡本薫・明治図書・2003）

このことが、これらの国で「ナショナル・スタンダード」を作り、「全国統一学力テスト」を行い、学校・校長の評価、教員資格の見直し、等の「教育改革」になった、と言われます。

「学力」は、見えたり見えなかつたりしますし、場や年代によっても求められる内容が変わってきます。子供たち自身・保護者・社会が求めている学力は何で、学校と教員がこれからの社会を生きていく子供たちに育成してやるべき学力は何であるべきか。

私どもはこうした問いにこたえるべく「いわてスタンダード」と「Gアップシート」を作成しました。

子供たちに「確かな学力」を保障するため、より良い改訂版にアップしていきたいと願っています。活用とご指摘をお願いします。



ご覧になりましたか？ 「いわてスタンダード」と「Gアップシート」

岩手県教育委員会と岩手県立総合教育センターが共同して、中学校国語科・数学科・英語科の指導と評価の一体化を図るための参考資料（「いわてスタンダード」と「Gアップシート」）を作成し、平成19年3月下旬には13種類の冊子を、平成19年4月上旬にはCD版を各中学校へ配付いたしました。既に、ご覧いただき、ご活用いただいていると思いますが、活用例を紹介いたします。

「いわてスタンダード」とは？

学習指導要領及び国立教育政策研究所作成の評価規準を基に、本県の生徒の実態を踏まえて、3教科（国語、数学、英語）において身に付けさせたい『中核となる力』を明確に示したものです。



「Gアップシート」とは？

「いわてスタンダード」に示した『中核となる力』に対応して作成した評価問題で構成した学習シートのことです。

「いわてスタンダード」に示す『中核となる力』は、生徒に身に付けさせたい力の中でも特に重点的に取り上げたいところを、学習定着度状況調査の結果等を基に明らかにし、具体的な指導レベルで明らかにしたものです。



「いわてスタンダード」の活用例

授業の計画や評価の際に活用できます。特に、各学校で作成している評価規準の見直しや、具体的評価規準の信憑性を確かめるための資料として活用が考えられます。

活用の仕方については、各学校で検討して下さい。

活用のポイント

授業では、目標に準拠した評価（指導と評価の一体化）が行われるように、教材研究を進めておくとともに、授業設計から評価場面までを視野に入れて準備を整えることが必要です。

「いわてスタンダード」を活用することにより、単元及び単位時間毎の目標を明確にすることができ、指導内容が重点化された授業づくりができます。

また、「Gアップシート」を活用することにより、指導内容に対する実現状況を評価することができるので、指導計画の修正や事後指導の手だての準備等に役立てることができます。

「Gアップシート」の活用例

このような場面での活用が可能です

- 授業
- 朝学習
- 家庭学習
- 選択教科

このような活用が考えられます

- ・生徒の実態把握のための事前テスト・事後テストとして
- ・授業中の学習内容のチェックシートとして
- ・指導内容の定着確認テストとして
- ・補充や発展に対応した指導として

平成19年度新規開講研修講座の紹介

総合教育センターでは、新しい教育的課題に対応するため、毎年、研修講座の改善・充実に努めています。今年度も、「小学校・中学校キャリア教育指導者養成研修」「プレゼンテーションソフトを活用した教材作成研修」「書写指導研修」など、6つの研修講座を新たに開講しました。

今回は、その中から「特別支援学校専門性向上 研修講座」について紹介します。

「盲・聾・養護学校」から「特別支援学校」へ

本年4月施行の改正学校教育法により、これまでの「盲・聾・養護学校」の名称が「特別支援学校」に変更されました。この改正には、一般社会におけるノーマライゼーション理念の浸透などを背景として、「特殊教育」から一人一人の教育的ニーズへの適切な支援を行う「特別支援教育」への転換という大きな意味が込められています。これからの特別支援学校は、複数の障害種への対応と地域の小・中学校等への支援といった特別支援教育のセンター的機能の充実とが求められます。

特別支援学校専門性向上 研修講座

そこで、これからの特別支援学校の教員に求められる専門性の向上を図るため、今年度新たに本講座を開講しました。これは、県内特別支援学校より推薦された17名の先生方が、1期各2日間にわたって研修するものです。

期は6月19日（火）～20日（水）に、次の内容で行われました。

- 一日目「学校教育法等一部改正と特別支援教育」(及川求 県教委学校教育室特別支援教育担当課長)
- 「特別支援学校における専門性の発展」(小坂隆 県立盲学校長)
- 「複数の障害種・障害の重複化に対応した教育課程の在り方」(朝野浩 京都西総合支援学校長)
- 二日目(会場：県立花巻養護学校)

「校内支援体制の在り方」(田貝孝 校長) 授業参観、研究協議

研究協議では、知的障害と肢体不自由のある児童、医療的ケアを必要とする児童を交えた授業における指導内容・方法の工夫、教育課程編成の在り方等について協議を深めました。



二日間の講座をとおして「これからの特別支援学校においては、特別支援教育のセンター的機能の充実という新しい課題への対応は重要であるが、特別支援学校に在籍する児童生徒への指導、校内支援の充実がその基盤になければならない。すなわち、教師の専門性の中核は“授業力”である」との指摘が講師の先生方からありました。



～研修者のアンケートから～

「多様な障害種に対応する特別支援学校への転換を図るために、参考になる内容であった」「改めて、日々の授業の大切さを実感した」など

10月3日（水）～4日（木）の期では、「関係機関との連携協力体制の構築」や「授業改善・評価」に関する講義、県立盛岡養護学校を会場とした授業参観、講義、研究協議等が予定されています。

学力向上担当の紹介

昨年度まで学校教育室に配置されていた学力向上担当指導主事が、今年度から、総合教育センターと宮古教育事務所に配置されました。

そのうち総合教育センターには4名が勤務しており、久慈・宮古・釜石教育事務所を除く各教育事務所管内の中学校・高等学校・特別支援学校を対象として、すでに5月から連日各地域の学校を訪問しています。みなさんの積極的な参加と意見交換をよろしくお願いします。

中・高・特別支援学校の教員
授業を相互に参観、授業について意見交換
指導主事
中高や異校種間の連携の視点から、英語と
数学における授業改善に係る助言・指導等



蛇口指導主事 伊東主任指導主事 阿部指導主事 須川指導主事
(高・数学) (中・英語) (中・数学) (高・英語)

生徒の学力の向上と進路希望の実現を支援

「岩手県学校教育調査B(学習)」調査結果から

～わかりやすい授業の工夫を！～

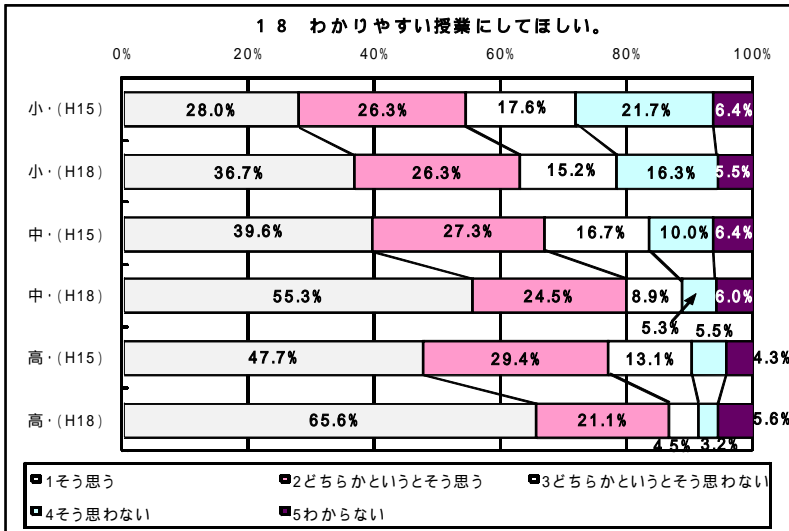
「岩手県学校教育調査B(学習)」とは
総合教育センターでは、平成17年度から3年計画で「岩手県学校教育調査」を実施しています。

【調査目的】	【調査対象】	【調査内容】
本県の学校教育に関する状況について、様々な立場の意識の実態を定期的に調査し、課題の把握や教育振興等の基礎資料とする	小・中・高等学校の児童生徒・保護者・教員、その約5%を抽出して実施	「調査A」 学習面・生活面全般についての基本的内容 「調査B(学習)」「調査C(生活)」 調査Aを補完する具体的内容

今回結果をまとめた「学校教育調査B(学習)」は昨年9月に実施し、「勉強が好きな児童生徒の割合」「勉強は大切だと考えている児童生徒の割合」「これまでもっと勉強しておけばよかったと考えている児童生徒の割合」「家庭学習時間」「子供をどこまでの学校へ進学させたいか」等について調査し、その結果を前回調査結果(平成15年度実施)と比較しています。

「わかりやすい授業をしてほしい」の増加

今回の調査結果から、「わかりやすい授業をしてほしい」という質問に対して「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した児童生徒の割合が、平成15年度と比較すると小・中・高等学校すべての校種で増加していることがわかりました。



学校生活の中で最も多くの時間を占める授業を、一層わかりやすくしていくことはとても大切なことではないでしょうか。

これらの調査内容と結果は、総合教育センターのwebページにまもなく掲載する予定です。

(http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/tyousa_abc/)

また、今年度は更に「学校教育調査C(生活)」を実施し、小・中・高等学校及び特別支援学校の生活面について調査をする予定ですので、ご協力をよろしくお願いいたします。

公開講演のご案内

最新の情報・動向にふれてみませんか!

次の講演については公開しますので聴講が可能です。聴講を希望する場合は、各学校に配付済みの「教員研修の手引」様式11により、直接センターに申し込んでください。

月日(曜)	時間	講座番号・講座名・講演題等	講師
7月26日(木)	9:45~12:00	【228】学校教育相談リ-ダ-養成 いじめ、不登校の理解と対応	東京学芸大学 教授 小林 正幸
7月26日(木)	13:00~16:30	【228】学校教育相談リ-ダ-養成 社会性を育てるスキル教育	東京学芸大学 教授 小林 正幸
7月30日(月)	14:15~16:15	【221】中学校社会 社会科の新しい基礎・基本	岐阜大学 教授 北 俊夫
8月9日(木)	13:00~16:30	【128】特支10年研 教育相談と家族支援	文教大学 講師 秋山 邦久
8月22日(水)	13:00~14:30	【307】道徳教育 豊かな心を育てる道徳教育	上越教育大学 准教授 林 泰成
8月29日(水)	9:45~12:00	【226】小中キャリア キャリア教育の推進に向けて	筑波大学 キャリア教育室長 渡辺三枝子